

# 元気なまちかど

## ビオトープで希少な動植物を守り育てる環境作り

### みなくち子どもの森

みなくち子どもの森では、希少な動植物を守り育てるための環境づくりに取り組んでいます。

5月19日にはビオトープ作りが行われ、同園で定期的に活動する友の会のメンバーや甲南中学校科学部など11名が参加しました。

このビオトープは、棚田の放棄田を活用したもので、当日は土を掘り起し、「ウホネ」など3種類の水草を植栽する作業を行いました。徐々に湧水がたまり始めたビオトープに早速サワガニが姿を現し、観察することができました。

また、甲南中学校科学部が、部活動の一環として、希少植物を増やしていくと種や挿し木から育てたキキョウの苗を同園内に移植しました。



ビオトープに水草を植栽する親子

## 市内で農村生活を体験

### 都市農村交流事業

都市農村交流事業として取り組んでいる「忍者の里」こうかで田舎体験で、5月から6月にかけて、兵庫県と神奈川県との6中学校から、約1,000名が市内を訪れ、農村生活を体験しました。

5月25日には、海老名市立有馬中学校の3年生4名が、コンニャクイモの畑作りに挑戦し、種イモを植えました。

生徒たちは、イモが収穫できる3年後にまた訪れたいと、自分たちで作った畑に愛称をつけていました。

都市部では味わえない新鮮な空気や豊かな自然の中、受け入れ家庭との交流により、甲賀市が第二のふるさとと感じられるような体験となったようです。



畑作りを手伝う生徒

## 心を込めておいしいサツマイモに

### 貴生川認定こども園・イモの苗植え

貴生川認定こども園の農園で5月23日、イモの苗植えが行われました。貴生川地区の老人クラブの皆さん28名と同園4、5歳児172名が約200本の苗を植えました。

子どもたちは、おじいさんおばあさんに教わりながら大きく育つよう心を込めて植え、作業中好きなサツマイモの料理を尋ねられると、「お味噌汁」などいくつも挙げて収穫を楽しみにしていました。

今後水やりや草引きなどの世話も園児が行い、秋には、老人クラブの皆さんと一緒に収穫後、焼き芋で自分たちが育てたサツマイモを味わいます。



サツマイモの苗植えを教わる園児

## 社会人として新たな決意

### 新就業者激励会

抱負を述べる  
新就業者代表の  
谷口さん

## 新就業者激励会



市内企業・事業所に就職した新規卒者を対象とした新就業者激励会が5月22日、忍の里プラザで開催され、59社から210名が参加しました。

中嶋市長は「いつまでも、どこでも学びの姿勢を持ち続け、企業になくはない人材として活躍されることを願っています。」と激励し、新就業者を代表して特別養護老人ホーム信楽荘の谷口実加さんが社会人としての抱負を力強く述べました。

その後の人権研修では、メンバー全員が不登校を経験した音楽グループ「JERRY B.E.A.N.S」や手話シンガーYokoさんに由来する人権ライブが行われ、参加者は、メンバー自らの経験から伝えられるメッセージに聞き入っていました。

## 友達の大切さを紙芝居で学ぶ

### 甲南中部小学校・いじめ防止教室



いじめ防止の紙芝居を見る児童

甲南中部小学校で5月28日、いじめ防止教室が開かれました。県警少年課に今年度から設置された「いじめ防止啓発サポーター」など6名が、1・2年生児童56名を対象に紙芝居や紙パズルを使い、いじめ防止を呼びかけました。

紙芝居は、公園の砂場で知らない友達同士が、スリッパなどの道具を無断で使ってしまったことからトラブルになるといふ、子どもたちの身の回りに起こりそうな出来事を題材にしたものです。

子どもたちは、紙芝居の内容を振り返りながら、ぶたない、盗らない、嘘をつかない、謝るなど友達と仲良く過ごすために「しなければならぬこと、してはいけないこと」を学びました。

## おじいさんおばあさんと一緒に昔のお菓子作り体験

### 鮎河小学校・祖父母交流会

「げんこつあめ」  
作りに挑戦する  
児童



鮎河小学校で5月31日、祖父母交流会が行われ、全校生徒24名が地域の方に教わりながら「げんこつあめ」作りに挑戦しました。

「げんこつあめ」は、水あめやほったい粉などを混ぜて煮、練ったものにきな粉をまぶして作る昔ながらのお菓子です。

子どもたちは、「昔は、何も売っていないから家の人が考えて作ってくれたものを食べていた」という地域の方のお話に驚き、初めて知る昔のお菓子作りを楽しみました。

児童は、「切り分けるところが楽しかった。家でも作ってみたい。」と、出来立てのあめをいくつも口に運んでいました。